

地上デジタル放送普及推進 ミニドラマ

やさしい嘘 (第一稿)

いちごとせんべい 第二話

脚本 大岡俊彦

登場人物

綾子 (27)
祐一 (27)

源治郎 (62)

煎餅や「ささき」の女房。
煎餅や「ささき」の主人。

綾子の父。田舎から上京。
小松政夫のような飄々としたユニークさをもつ。
東京タワーが出来た時(1958)には10才という設定。

○焼き釜でせんべいを焼く祐一

○煎餅や「ささき」店内

レジを確認した綾子、動きが止まる。
怒りに震える。

○「ささき」内、焼き釜の前

綾子「ちよつと祐ちゃん！ またレジの計算合わないんだけど！」

祐一「ん？（煙草に火をつけようとして）」

綾子「また煙草代ちよろまかしたでしょ！

一円でも店のお金です！」

祐一「…細かいこというなよ。俺が焼いてる煎餅の代金だろ？」

綾子「私が売っているんです！」

祐一「焼いてんのは俺だろ！？」

綾子「…その煙草、よこしなさい！」

揉み合う二人。その拍子にトレイごと煎餅が落ちて、割れてしまう。大量の割れた煎餅。

綾子「あ！…」

ひよつこりと首を出す源治郎。

源治郎「まあまあ。ケンカはよしなさい」

綾子「お父さんは黙ってて！」

源治郎「…ハイ」

祐一「…アレ？」

綾子「あれ？ お父さん！ いつ東京に」

源治郎「（人懐こい笑顔）ハロー、CCCQ」

○割れた煎餅に、タイトル『やさしい嘘』

○夜、食卓

晩ご飯のあとのお茶タイム。

綾子「（洗い物しながら）同窓会だから泊

めてくれて、明日だと思ってた」

源治郎「死ぬ前に寄りたい所があって、一日早めたのだ」

綾子「死ぬはおおげさでしょ」

祐一「どうぞ（と煎餅を出す）」

源治郎「ん？」

出された煎餅は全部割れもの。

綾子「つくる過程で、どうしても割れちゃうやつが出るのよ」

祐一「釜が古いので。味は同じですから」
源治郎「（次々と食べて）ウマイ。これもウマイ。捨てるの勿体無いねこれ。へえ。昼間のアレも、どうしても割れちゃったのかい？」

空気が凍る。察知した源治郎、テレビをつける。スカイツリー建設中のニュースが流れる。

源治郎「キターッ！ さすが東京！ 見よ輝

くデジタル波！」

祐一「？」

綾子「あ、父はアマチュア無線マニアで」

祐一「あ、CCCQって言ってましたよね」
源治郎「デジタル波すごいよ！（データ放送に変えたりして）ホレこの情報量でアナログ波よりスリムなんだよ！」

祐一「…はあ」

○翌朝、布団だけたたまれている客間

源治郎の荷物だけ残っているのに気づく綾子。

カバンから封筒がはみ出していて、中の文字が見えている。

『検査結果の通知：末期癌』。

綾子「…（動揺する）」

○検査結果を握りしめ、店を飛び出す綾子

○秋葉原、アマチュア無線の専門店

変な形の部品を物色する源治郎。

すごい剣幕で駆けてくる綾子。

綾子「寄りたい所って、このこと！？」

源治郎「…きょう一日、実の娘とデートしてもいいかい？」

綾子「なんのことよ!？」

○浅草や隅田川、メイド喫茶など

はしやぐ源治郎に困る綾子。

綾子「(ケータイで) うん。大丈夫。これから一番いきたいところへ行くって」

○建設中のスカイツリー、夕方〜夜

小走りの源治郎。

源治郎「ひゃっほう! やっぱ生はでっかいねー!」

綾子、ポケットから出した封筒をにぎりしめる。

源治郎「子供の頃、出来たばかりの東京タワーに憧れてねえ。あの頃、一人一人の小さい力を集めて、みんなで時代をつくったんだ。こいつもいつかそんな象徴になる。今からわくわくするね。君らが新しい時代をつくるんだ」

綾子「…お父さん、あのね」

源治郎「祐一くんとは、毎日喧嘩するのかい」

綾子「アレは、たまたま。店のお金の細かい所で。新しい焼き釜が欲しいっていうから、ずっと貯金しようと思ってたのに、それを」

源治郎「なんだ。愛しているんじゃないか」

綾子「そりゃそうよ!」

源治郎「だそうで」

といつの間にか横にいる、自転車から降りた祐一に振る。

綾子「あ:(急に恥ずかしくなる)」

源治郎「その検査結果、ネットで拾ったニセモノだ。よく出来てんだろ?」

綾子「えっ!? 何!? 何の為に!？」

源治郎「とりつくるってない、おまえを見る為だよ」

綾子「…ひどい！ 私、本気で心配して」
源治郎「本気が聞けて、安心した」

綾子「…。勝手よ」

祐一「ハイ、新作。安く譲るつもりなんで、
煙草代にしなければならないけど」

割れた煎餅の詰め合わせが美しくラッ
ピングされている。

祐一「名前は…割れてもなくならないって
意味で、『仲直り』なんてどうかと」
つい笑ってしまふ綾子。

○翌日、店先

手土産を持たされ、去る源治郎。

綾子「あの電波親父、今度は来年の7月2
4日に東京タワー見に来るって」

祐一「？ …あ、アナログ放送が終わる日」
笑う二人。お客さんが来る。

見上げると、遠くに建設中のスカイツ
リー。

タイトル『新しい時代は、ちいさな人の心が
つくってゆく。』

2011年7月24日、NHKはデジ
タル放送へ移行します』